



2021-2022年度主題
 国際会長 キム・サンチエ(KR)
 “Heal the World with Love and Dignity”
 アジア太平洋地域会長 大野 勉 (JP/神戸ポートクラブ)
 “Think for the next generation”
 東日本区理事 大久保知宏 (宇都宮クラブ)
 「100年を超えて変革しよう」
 湘南・沖縄部長 若木 一美 (横浜とつかクラブ)
 「咲かそう 人の輪」
 クラブ会長 辻 剛
 「弱者に寄り添う愛と奉仕の実践」
 スローガン：「生涯現役」で楽しいクラブライフを！

2021-2022 クラブ役員	
会長	辻 剛
副会長	林 茂博
書記	鈴木 茂
会計	横田 孝久

今月の聖句

「主は羊飼ひ、わたしには何も欠ける
 ことがない。
 主はわたしを青草の原に休ませ、
 憩いの水のほとりに伴ひ、
 魂を生き返らせてくださる」
 (詩編23・1-3)

11月本例会

“湘南・沖縄部若木部長公式訪問”

日時 11月26日(金)17:00～
 場所 かけはし都筑
 司会 今城高之 受付 岡田美和

～プログラム～

- 1. 開会点鐘 会長
- 2. ワイズソング・ワイズの信条 一同
- 3. 今月の聖句・祈祷 相賀先生
- 4. ゲスト・ビジター紹介 司会
- 5. 会長挨拶 会長
- 6. 若木部長紹介 会長
- 7. 若木部長挨拶
- 8. 若木部長と一問一答
- 9. YMCA報告 鴨下館長
- 10. Happy Birthday 該当者なし
- 11. アピール、スマイル
- 12. 閉会点鐘 会長

「巻頭メッセージ」

めぐり逢い

今城 高之

我

々の人生には様々な「めぐり逢い」がありますが、ここでは“歌”とのめぐり逢いについてお話します。以前から朝、目が覚めて起きるまでの暫しの間、イヤホンでラジオを聴くのが習慣になっています。その日（2021年8月12日）も、カーテン越しの朝日が熱気を伝えるベッドの上でラジオを聞いていました。36年前のその日、日航機123便が群馬県の山中に墜落し、全乗員524人の内520人が亡くなるというとても痛ましい事故があり、亡くなった方々の中に、当時売れに売れていた歌手の坂本九氏がいたことは皆さんもご存じの通りです。その番組は、故坂本九氏の未亡人、柏木由紀子さんが出演して36年を振り返るといった内容だったと思います。話の前後が定かではありませんが、柏木さんが心に響いた“歌”として「竹内まりや」の「人生の扉」を上げ、曲が披露されました。後で調べると2007年にリリースされた曲で、「竹内まりや」のベストアルバムにも収録されている曲なので、有名な曲なのかもしれませんが、僕には初めて聞く曲でした。軽やかなワルツのリズムに乗って歌われる曲や歌詞が心に残り、起きてからYouTubeで再生してみました。誌面の都合で、歌詞の全てを書き写すのは無理ですが、心に残ったフレーズの幾つかを紹介します。“春がまた来るたび一つ年を重ね・・・”と始まる一番は“信じられない速さで時が過ぎ去ると知ってしまったら、どんな小さなことも覚えていたいと心が言ったよ”と終わります。二番では、“満開の桜や色付く山の紅葉を、この先いつい何度見ることになるだろう・・・、ひとりひとり愛する人たちのために生きてゆきたいよ”そして最後は、“I say it’s sad to get weak. You say it’s hard to get older. And they say that life has no meaning. But I still believe it’s worth living.”と結んでいます。この曲が何故に心に沁みただのか考えてみました。曲の美しさは言うまでもありませんが、本年79歳の誕生日を迎え、いよいよ来年は80だという思いが心の隅にあったのは否めません。事実、「この先何回夏を迎えるのだろうか？」と自問したこともありましたが、また、「小さいこと」どころか、大きなことでも忘れてしまうこの頃の自分が気になっていたことも事実です。そんな、老人性躁鬱状態のような心境のなせる業かも知れませんが、自分なりの結論は、いい曲なんだから心に残った、というものです。皆さんも是非一度YouTubeでも聞いてみてください。

<https://www.youtube.com/watch?v=smDCdceVtIc>

コロナ禍のせいもあり、最近あまり歌を歌うこともありませんし、新しい歌を聞くこともめっきり少なくなりました。そんな中で、十数年前のヒット曲とはいえ、僕にはとても新鮮に感じられる歌に巡り合ったことは喜びです。そのうち、もし忘れなければですが、久保さんの伴奏で皆さんにご披露できる日がくればいいと思っています。（完）



《例会報告》

10月度事務例会報告

クラブ書記 鈴木 茂

日時：2021年10月12日（火）17:00～18:00
 場所：夢カフェ（対面・Zoomのハイブリッド方式）
 出席者：今城H・T、岡田、鈴木S、林、福島、横田
 （以上対面参加）
 胡麻尻、鈴木K、辻Ta・Tu（以上Zoom）
 （合計11名）

【議事次第】

1. 会長挨拶

辻会長はご自身の体調不良に鑑み、事務例会は当面Zoom出席にしたいので、議事運営にご不便をかけるがご協力願いたいとの挨拶があった。

2. 協議事項

- ①年末助け合い募金事業助成金申請の件
 今年度は既に善意銀行の補助が決まったこと、コロナ自粛で多数の人が集合する奉仕活動は実施困難であること等の事情から、申請を見送る。
- ②ワイズ・ナイト・フォーラムの呼びかけ
 東日本区“Change!2022推進委員会”が主催する「ワイズ・ナイト・フォーラム」の2回目が10月24日（日）20:00～22:00に開催される。クラブでは既にプリンやFacebookにて案内しているが、更にチラシを使い入会候補の知人・友人に送付するなど会員増強に活用することを再確認した。
- ③つるみクラブとの合同例会
 かねてより懸案の近隣クラブである「つるみクラブ」との合同例会開催を2022年2月25日（金）の北Yとの交流会に参加していただくよう申し入れる。
- ④「動画で分かるワイズメンズクラブ」へアクセス（QRコード経由）して内容を把握するとともに、身近な知人・友人に配布してワイズのPRと会員増強に活

用することを確認した。

- ⑤今後のクラブ例会及び懇親会のあり方に関する件
 辻会長の体調ならびにコロナの先行き不透明な状況を勘案し、当面は事務例会、本例会とも対面とZoomのハイブリッドで開催すること（辻会長は原則Zoom参加）を確認した。
 なお、緊急事態宣言は解除されたが、夕食を兼ねた懇親会をクラブとして開催することは、引き続き見合わせることを再確認した。

3. 活動報告等

- ①赤い羽根募金へは、岡田、林、横田の各ワイズが参加して協力した。
- ②辻会長(部エクステンション委員長)に代わり、鈴木茂・部会員増強事業主査がつるみクラブ入会式（10/14）へ出席する。

4. 行事予定

- 11月9日(火) 17:00～ 事務例会@都筑教会 Zoom(ハイブリッド)
- 11月21日(日) 20:00～ 第3回ワイズ・ナイトフォーラム Zoom
- 11月26日(金) 17:00～ 本例会（若木部長公式訪問）@かけはし都筑・Zoom（ハイブリッド）

5. 各種アピール

今城Hよりcocoの集い、10/26（火）映画鑑賞会「最高の人生の見つけ方」の案内があった。人数制限あり。

6. 黙祷をもって閉会。



《懐かしの1枚》

5年前の2016年10月28日、クラブの移動例会で栃木県へのバス旅行の際訪れたココ・ファーム・ワイナリーでの1枚です。当日、生憎の雨天ながら 8名のゲストを含む総勢24名が参加しての楽しい1日を過ごしたことが記憶に残ります。（P5「素人のワイン蘊蓄」参照）

10月のデータ



例会出席	17名	在籍会員数	16名	各種記録	月実績	年度累計
メンバー	13名	月間出席者数	15名	スマイル	0円	0円
ビジター	1名	メ・キャップ	1名	—	—	—
ゲスト	3名	月間出席率	100%	—	—	—

《例会報告》

10月度本例会

報告 鈴木 恭子

日 時:10月22日(金) 17:00~19:00

場 所:かけはし都筑

司会:岡田美和、受付・報告:鈴木恭子

出席者:【会場】相賀、今城T、岡田、鴨下、胡麻尻、

坂口、鈴木K・S、辻Ta・Tu、林、福島、
横田

(ゲスト) 秋元美晴様

【Zoom】今城H 杉本

(ゲスト) 大野君枝様、佐渡友順子様

(ビジター) 栗本治郎様 (以上19名)

1.会長の開会点鐘に続き全員でワイズソング・ワイズの信条を唱和

2.相賀チャプレンによる聖書『エレミヤ書29:11』と祈禱

3.会長挨拶と共に卓話をして頂く秋元美晴先生とZoomでの参加者の紹介

4.卓話 秋元美晴先生(恵泉女学園大学名誉教授)

「一日本語教育者から見た『聖書』の日本語」

・聖書はこれまでほぼ30年ごとに翻訳が改訂され、今回『聖書協会共同訳』が2018年12月に刊行された。

・今回の翻訳改訂の目標は「礼拝での朗読にふさわしい、格調高く美しい日本語訳を目指す」ことであり、先生はノンクリスチャンの外部モニターとして編集に携わられた。

・今回の「聖書協会共同訳」改訂作業において、先生は日本語として不自然と思われる言葉使いとその理由を幾つか指摘されたが、採用されたものと、採用されなかったものがあったとのこと。

・たとえば、箴言31:20に「乏しい人に手を伸べる」とありますが、先生は「手を差し伸べる」という表現のほうが日本語として相応しいのではないかとご提案され、採用された。

・他方、マタイ5:46の「自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたはどんな報いがあるか」などにみられる「報い」という言葉は、日本では悪い意味で使われるケースが多いので、「報酬」という表現に代えたほうが良いのではないかと、ご提案されたが採用されなかった。

・先生は「2年7か月にわたる作業は大変だったが楽しい仕事だった」と結ばれました。

・その後多くの方々から質問や感想が活発に出され、例会の場が盛り上がりました。

・なお、先生は近々、洗礼を受けられるご決心をされたとのこと。大変嬉しく思います。

5.協議報告事項 なし

6. アピール・行事予定等について

1) 若木部長公式訪問 11月26日の本例会

2) 10月23日(土)の部大会への出席者確認:
(対面)今城T、鈴木S、林、(Zoom)鈴木K、辻Tu

3) 横浜YMCA報告(鴨下館長)

・クリスマス礼拝 12月18日 15時~18時 紅葉坂教会、対面・Zoomのハイブリッドで参加。

・「ウオーターセーフティーキャンペーン」のクラウドファンディングは、目標金額に達せず返金。

7. ハッピーバースデー:今城宏子さん

8. 会長による閉会点鐘で閉会。

※恒例の懇親会食会は未だ自粛中。



(対面とZOOM併用のハイブリッド会議にもすっかり慣れました)

《特別寄稿》

渋沢栄一とマックス・ウェーバー ～その1～

鈴木 茂

今年のNHK大河ドラマ「青天を衝け」の主人公・渋沢栄一は、日本の資本主義の父とも言われている実業家ですが、晩年の談話録「論語と算盤」の中で彼が最も強調している点は、“事業経営（算盤）は道徳（論語の精神）を伴わなければ決して成功し、永続することはできない”ということであります。

渋沢栄一は「論語」の中で孔子が教える「仁」、「信」、「忠」、「孝」などの徳目こそ、実業家が身に修めべき道徳の基準であり、指針であると後輩の実業家たちに勧めます。しかし彼は「論語」を決して表面的に解釈しようとはしません。「論語」の巻第二 里仁第四に、「富と貴きとは、これ人の欲するところなり。其の道をもってこれを得ざれば、処らざるなり。貧しきと賤しきとは、これ人のにくむ所なり。其の道をもってこれを得ざれば、去らざるなり。君子、仁を去りていくにか名を成さん。君子は食を終うの間も仁に違ふこと無し。」という一節があります。この個所について、彼は談話録の中で次のように書いています。「この言葉は、富や地位をいかにも軽視したような内容に思われるが、実は一方の側面だけから説かれたものだ。よくよく考えてみれば、富や地位を軽視したようなところは一つもない。あくまでも富や地位にのめり込むことを戒められただけなのだ。彼が「論語」の言葉を深く読みこなし、孔子の真の意図を汲み取ろうとするバ

ランス感覚の極めて優れた人物であったことが伺われます。

渋沢が事業における商業道徳の重要性を掲げるのは、道徳を守り相手の信頼を得ることが結局は事業の成功につながる、という経営上の損得判断だけから主張しているのではありません。「論語と算盤」第4章「仁義と富貴」の個所で彼は、「自分の利益が欲しいという気持ちで働くのも、世間一般の当たり前の姿である。その中で、社会のためになる道徳を持たないと、世の中の仕事と言うものは、少しずつ衰えてしまう」、「だからこそ、本当の経済活動は、社会のためになる道徳に基づかないと、決して長く続くものではないと考えている」と述べています。つまり彼は、道徳や信用を基盤とした社会全体が富む経済の確立を目指していたと考えることができます。

渋沢はこのように日本の資本主義経済の勃興期にあつて、利益追求を目的とする事業活動は行き過ぎる危険が高い故に、これを持続的に遂行するためには、商業道徳の倫理が必須であるとの彼独自の「資本主義の精神」を説いたわけであります。

(以下次号)

※本稿は、当クラブの鈴木茂ワイズが所属する田園都筑教会の会報「つづきのいのち」2021年10月1日号に投稿されたもので、鈴木茂ワイズならびに会報発行人のご了承を得て本誌に3回にわたって転載するものです。



会長の本棚より 辻 剛

「強制収容所に入れられた人間は、ほんの一握りではあるにせよ、内面的に深まるひとびともいた。強制収容所の人間を精神的にしっかりさせるためには、未来の目的を見つめさせること、つまり、人生が自分を待っている、だれかが自分を待っていると、つねに思い出させることが重要だった。」

(「夜と霧」V.E.フランク)

コロナ禍のなかで私たちは好むと好まざるとにかかわらず自分と向き合う時間が増え以前より内面的、精神的な生活を送りました。向き合い方も人様々で悲観的にももの考えたりしたひともあるだろう。

また、「ハンセン病は明白な伝染病であり、その破局的な様相は、死刑囚の場合やナチスの強制収容所に入れられた場合に近いものがある。(中略) 愛生園の中の人には何か精神的な生きがいを持っているひとだけが、いきいきとした人間らしものをたもちつづけているといっている人が多すぎでない。そのひとびとを支えているものは何かといえば、お互いの暖か

い心の交流である。」と瀬戸内海の島にある国立療養所愛生園でハンセン病の医療に携わった神谷美恵子も前回ご紹介した「生きがいについて」のなかで語っている。

フランクも別なところで云っている。「いくら素晴らしい技術があっても人は癒せない。人間的な触れ合いと愛の交流がなければひととは癒せない。」

コロナごときで、ネガティブにももの考える必要はないと思うが、そのような心境に達するにはパンデミック以上の苦痛が歴史上この世に存在したことを学ぶしかないのかも・・・。

(完)

《お知らせ》

当クラブでは、今年も湘南・沖縄部の「CS・Yサ事業支援金」の申請を行うこととしました。

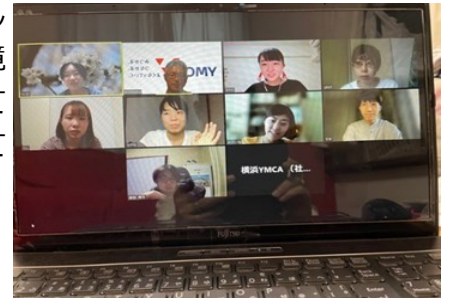
対象となるクラブの事業は、東日本大震災被災地支援活動の一環として行っている、宮城県山元町「つばめの杜保育所」と同町の特別養護老人ホーム「みやま荘」へのクリスマスの贈り物購入・輸送費と手作りマスク材料費・輸送費として20,000円を申請致します。これらの事業実施に際してはクラブメンバーのご協力をお願いいたします。

11月に入り、時折肌寒さを感じる季節となりました。横浜北YMCAでは水泳や体操教室に参加する子ども達が、テストに向けて頑張る姿が見られます。

さて、横浜北YMCAでは、9月より、水泳、体操、サッカー、野外活動、菊名小キッズクラブ、学習・教育支援などのプログラムの指導に関わる学生のユースリーダーを対象に、リーダー達が一堂に集まり、交流を深めながら、地域の課題に目を向け、解決していくことを目的としたリーダー会がスタートしました。9月に開催されたリーダー会には12人、10月は10人のリーダー達が参加し、今年度のテーマを決め、SDGsをテーマとした活動に決まりました。早速、YMCAに来ている子ども達に、SDGsの理解を深める為の「SDGsクイズ」や「正しいタブレットの使い方」について掲示を作成し会館の入口に掲示しました。

来年の1月には、リーダー会の構成員である野外活動のリーダー達が、子ども達と鶴見川周辺の環境問題について

考えながらハイキングを行うプログラムを実施します。鶴見川は全国109の河川の中でも利用者が全国でも2番目に多い河川だと言われています。現在、一般のごみや粗大ごみ、不法投棄などゴミの問題が深刻です。鶴見川を歩きながら、ゴミを観察し、ゴミが何故川にあるのか、どんな種類のゴミが多いのか、どのようにすればゴミが減らせるのかなどを考えます。未来をつくる子ども達が、地域のユースリーダー達と一緒に環境問題について考え、学ぶ機会となります。様々な活動を通して、少しでも環境問題が改善されていくことを願っています。（完）



(ZOOMでのリーダー会)

《特別寄稿》

素人のワイン蘊蓄 ~4~

横田 孝久

ここ何度か蘊蓄を寄稿してきましたが、海外のワインについての事柄でした。

ちょっとここで日本のワインについても勉強して美味しいワインに巡り合えたらと思った次第です。

横浜つづきY'sでは年1回、10月度の例会を移動例会として1日バス旅行を楽しんでおり、過去2回にわたって山梨の勝沼や栃木足利のココファームなども訪ねました。今やワインの産地は北海道から九州まで、ほとんど全国にわたっており、それぞれ特色のあるワインが生産されています。

日本ワインについては奈良時代の寺や官庁の主要なものを保管する正倉院がありますが、その御物(ごもつ)の中に酒器があって、シルクロードから中国に伝わったといわれるワインを飲んだようです。

そして、養老2年(AD718)、高德の僧、行基が西国から甲斐の国にやってきて、勝沼の日川の川岸で祈願したところ、薬師如来が現れたので大善寺と名づけた寺を建立しました。その時、薬師如来が左手に宝印を右手にぶどうの一房を持っていたので、そのぶどうの種をこの地にまき、それが「甲州」と云われたそうです。

その後、ポルトガルなどの宣教師が日本にやってきて織田信長などに献上してワインとして飲まれたようですが、これは楽しむと言うより薬酒の意味合いがあったようです。その故従来からの日本食では口に合わず、しかも高価であったので発展はしなかったようです。

そして、時は明治になり、文明開化、殖産興業政策により各地で栽培や醸造が盛んになっていきました。しかし、

日本の気候では高温多湿で秋に雨が多いので、ヨーロッパ系のブドウの栽培はむずかしかつたし、味自体も馴染めなかったようです。ちなみに織田信長が飲んだのはポートワインといわれています。

その他には現在の勝沼の住人であった「雨宮勘解由」(あめみやかげゆ)という人が当所で行われている石尊祭りに参加するための道中で多分山ぶどうと思われる葛草を発見したとか、「永田徳本」なる人が室町時代から徳川時代に医師で甲斐の国に長く住んでいたようで、彼が広めたともいわれています。

そして、本格的にワイン造りが開花するのは、第二次世界大戦後の昭和30年代になってからですので、まだまだ歴史的には新しいものです。

一応今月はこのくらいにして、小生もほとんど日本ワインは飲んでいませんが、経験と文献によって美味しい日本ワインを探す旅に出たいと思います。気分次第ですが、お楽しみに。おそまつでした。(完・2021.11)



栃木県足利のココファームワイナリー

日時：10月23日（土）14:00～
場所：湘南とつかYMCA 1階ホール

コロナ禍の中での開催ということで、会場での対面参加とオンライン（ZOOM）併用の大会となった。

参加者は、対面、オンラインほぼ半々で総勢40余名が参加。大久保東日本区理事、板村同直前理事がオンラインで参加された。

第1 部は、横浜エイズ文化フォーラム運営委員の岩室信也先生による「新型コロナウィルスとの向き合い方」と題する講演会があり、COVID-19を正しく理解することにより、その感染経路や人との接触の方法、感染する可能性の高いとされる行動の回避など、日ごろ生活するうえで気を付けなければならないことなどにつき実例を挙げご説明頂いた。

主な事項は次の通り；

◇ともすればオールマイティと思われがちなマスクも、有効に使わなければネガティブな効果となりうる。



（岩室信也先生）

- ・エアロゾル感染はマスクでは防げない。
- ・危険なのはマスクを頻繁に触れること。消毒していない手でマスクに触れると逆効果。
- ・特に子供はマスクをつけない方がよい。

◇有効な対策

- ・ウイルスを含むエアロゾル（水分）は放出されてから1時間程度10m範囲内で浮遊している、外気を取り入れるのではなく、室内の空気を強制的に外に出す「換気」がより有効。
- ・飛沫は約2m先まで飛んで落下する。調理、配膳する人はより効果的なマスク（不織布がよ

い）を着用することが大切。

- ・エアロゾル、飛沫は最終的に落下し、手や食事などの媒介物を經由して体内に入る。手で目をこすらない、鼻に指を入れない、指をくわえない等が対策の基本。

◇この他、エイズ、依存症など、多くの社会問題に関わる先生故、講演内容が多岐にわたり、報告者も戸惑いを覚えた場面もあったが、特に若者に視点を据えての諸活動には敬意を覚えた次第です。

第2 部に移り、開会点鐘、ワイズの信条唱和に引き続き開会の祈祷がありました。

部長挨拶の後、東日本区大久保理事、横浜YMCA佐竹総主事のご挨拶があり、ワイズならびにYMCAからの各種報告・連絡・クラブによる報告等があった、小松次期部長（厚木クラブ）の閉会挨拶があり定刻に閉会。本来であればここからがお楽しみの懇親会は時節柄中止のため、参加者は三々五々帰路につきました。



（湘南とつかYMCAに集ったメンバーたち）

《ちょっとお目を拝借》～第3弾～

前回に引き続き「高齢者川柳」をご紹介します。

デザートは 昔ケーキで 今クスリ
いたわりも 耳が遠くて 怒鳴り声
万歩計 歩数伸びるが 距離伸びず
驚いた（惚）ホしると（惚）ボケるは同じ文字
居れば邪魔 出掛けりゃ事故かと 気をませ
齢寄りの 渡る世間は 買ばかり

お後がよろしいようで！

▼コロナの新規感染者数が驚く速さで減少した。大変喜ばしい出来ごとではあるが、納得のいく説明が聞こえてこないのは不気味さを感じます。「神風が吹いてほしいなんて言いたす人がいないよう願っています。▼一方では、第六波必至という方も聞きます。年明け早々が山場とも言います。努々油断をしないようクリスマス、お正月を過ぎすことが肝要。▼総選挙が終わり新たな政府が発足。「人権担当大臣」が新設されたこと聞き、ようやくかと思っていたら、なんてことはない、よその国の人権問題を担当するというではない、りません。国内の人権問題には手を付けな

いのだろうか。ジェンダー格差では世界の1位の地位と恥ずかしい限り。嗚呼▼コロナで20位と終わろうとしていたこと、この先が始まり、ここまですべての希望を繋いでいきたいと思

たが、ここまですべての希望を繋いでいきたいと思

（編集子）

○●●●編集後記○●●●